文化遺産防災のための日本・トルコ国際シンポジウム

# 災害復興と文化遺産

災害からの復興において、文化遺産は重要な役割を果たします。地域の歴史や文化、人々の営みのなかで育まれてきた有形・無形の文化遺産は、その地域の固有性やアイデンティティを形づくる大切な存在です。
日本とトルコは、ともに豊かな文化遺産を有する一方、数多くの自然災害を経験してきました。本シンポジウムでは、両国の事例を通じて、災害からの復興における文化遺産の役割を考えるとともに、双方の経験と知見を共有し、今後のより良い文化遺産防災のあり方について議論します。

## 開催概要

**日時**　2026年12月10日（木）15:00 – 20:00（トルコ時間 9:00 – 14:00）

**開催形式**　オンライン（国立民族学博物館で開催するシンポジウムをリアルタイム配信します）

**言語**　日本語・トルコ語（同時通訳）　　**定員**　300名（事前申込制・先着順）

＊会場参加は関係者のみとなります。ご了承ください。

## プログラム

| 時間（日本時間） | 内容 |
|---|---|
| 15:00 – 15:15 | 開会挨拶<br>国立民族学博物館 館長 關 雄二 ／ トルコ共和国文化観光省文化遺産・博物館総局 博物館部門長 Serkan Gedük |
| 15:15 – 15:55 | トルコ側発表1　瓦礫管理における文化遺産保護 —2023年トルコ地震を対象に—<br>カフカス大学 美術史学科長・准教授　Muhammet Aslan |
| 15:55 – 16:35 | トルコ側発表2　トルコの博物館における地震への備え —行動計画と展示室の非構造部材リスクの軽減—<br>トルコ共和国文化観光省文化遺産・博物館総局 博物館部門長 Serkan Gedük |
| 16:35 – 17:15 | 日本側発表1　社会インフラとしての文化遺産<br>文化財防災センター長 高妻洋成 |
| 17:15 – 17:55 | 日本側発表2　博物館が地域復興に果たす役割 —令和6年能登半島地震で被災した穴水町を事例として—<br>国立民族学博物館 教授　日髙真吾 |
| 17:55 – 18:25 | 休憩 |
| 18:25 – 19:55 | 討議<br>登壇：Muhammet Aslan、Serkan Gedük、高妻洋成、日髙真吾<br>司会：犬塚将英（文化財防災センター副センター長） |
| 19:55 – 20:00 | 閉会挨拶<br>文化財防災センター長　高妻洋成 |

## 参加申込

以下の申込フォーム、またはQRコードからお申し込みください。

**申込締切**　12月4日（金）17:00

申込フォームURL
https://e9cbd0f5.form.kintoneapp.com/public/chdrm-20261210symposium

＊本シンポジウムは、令和８年度文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコにおける文化遺産防災体制向上のための拠点交流事業」の一環として開催するものです。

**主催**　文化庁 ／ 独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター ／ トルコ共和国文化観光省文化遺産・博物館総局 ／ 国立民族学博物館
**協力**　公益財団法人中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所